

フィードローラー部クラッチ交換-1

※安全の為、部品交換時は電源を切って作業を行ってください。

◇交換品

クラッチ機構

フィードロールの円周速度は、圧縮ロールでのフィルム圧縮伸びを加味し、圧縮ロール円周速度より若干増速しています。

この圧縮時のフィルム伸びは、フィルム種類により異なり、この異なる速度差をクラッチで滑らせる事で、円滑なフィルム搬送を実現しています。

このクラッチが劣化してくると、「内部フィルム弛み」などの異常が発生し、クラッチを交換することで、対処可能です。



①クラッチの滑り抵抗調整

クラッチ外周の菊形ナットをフィードローラーを止めた状態で時計方向に手で回すと、軸とローラーが滑り難しくなります。

逆に半時計方向にまわすと、軸とローラーが滑りやすくなります。

※通常GP1でのクラッチは、滑り難いよう強めの調整が必要です。

②クラッチ取り外し

クラッチ中心のM4ねじを緩めて外すと、クラッチを手で簡単に抜き取れます。

フィードローラー部クラッチ交換-2

③クラッチ取付け

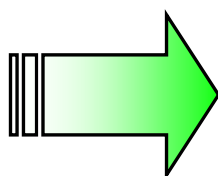
1. 軸のφ3mmピン(キー)赤丸を水平に保った状態で、クラッチ側の溝に合うように差し込みます。

2. 差し込む際に、クラッチ側の白い突起青丸もフィードローラー側の溝に合うように溝位置を合わせて、差し込んで下さい。合わせる溝は赤丸と青丸の2点です。

※これら凸凹が噛み合っていないと、クラッチ先端面とシャフト先端面がフラットな状態にならず、中央M4ネジと黒い抑えカラーでクラッチを固定する事ができません。φ3mmピン位置とフィードローラーの溝位置を確認し、再取付けを行って下さい。

3. 中心のM4ネジを締め付ければ、交換完了です。

※クラッチの黒い菊形バットは手で締め付け、クラッチ接触抵抗を大きくして下さい。



※クラッチの装着の時の注意点

クラッチ裏の黒樹脂・長凹部と、外周白樹脂・凸部を一直線になるよう白・黒樹脂同士を回転させ、同様に軸側のφ3mmピンと、フィードローラー奥の凹を水平一直線になるよう軸とローラーを回しておく、クラッチの凸・凹が一致しやすく、簡単に設置できます。